

取組実績の概要 【2ページ以内】

2015年度

日本人学生の長期派遣としてペルーに2名、短期派遣として南米3カ国に13名を派遣した。長期留学生としてペルーから1名を受け入れた。短期派遣に関しては、書類選考と面接試験により28名の応募者から、学業成績、語学力、学習意欲を基準にして13名の学生を選抜した。山形大学におけるスペイン語教育、南米3カ国での日本語基礎教育も開始した。ペルーのカトリカ大学との間で、ダブルディグリー制度構築のための準備協定書を締結した。

プログラムのホームページを日本語、英語、スペイン語の3カ国語で開設・設置し、本プログラムに関する情報に学生がアクセスしやすい体制を整えた。また、ペルー、ボリビア、チリの協定大学に日本語教員を配置し、広報・教育体制を強化した。ペルーのサテライトオフィスに南米側のコーディネーターとして常駐職員を配置し、3カ国間の連携を強化し事業の円滑化を進めた。短期派遣では選抜後に派遣国事情、治安・安全などに関する事前学習とスペイン語教育を実施した。

短期派遣の研修成果を、ホームページを通じて3カ国語（日本語、英語、スペイン語）でリアルタイムの情報発信を行い、短期派遣終了後に山形大学の3つのキャンパスにおいて事後報告会を開催した。山形大学の第3期中期目標・中期計画に本プログラムの取り組みと推進が盛り込まれ、事業を通じて大学全体の国際化を加速することが明文化された。

2016年度

カトリカ大学へ長期2名の他、2～3月にアンデス3カ国に短期6名を派遣し、協定6校全てと交流活動を行った。カトリカ大学からは、長期1名の他、7～8月にアンデス3大学から短期12名を受け入れた。平成29年度は対象を協定6校全てに拡大、当初半年の予定で来日した1名は期間を1年に延長した。

9月にペルー・サテライト・オフィスを開所し、南米全体の基本的なとりまとめ・調整を現地で行えるようにした。1月には協定6大学の担当者会議を山形で開催し、プログラムの方向性を議論した。

日本ではスペイン語講座、アンデス諸国では山形大学主催の日本語講座を開設し、それぞれ1年間の語学教育を修了した者が短期プログラムに参加する体制を整えた。全ての長期受入学生に対して日本語教育の他、インターンシップを実施した。また日本企業への就職を希望する者には、ビジネス関連科目を開講している。派遣学生に対してはスペイン語教育の他、現地の状況を説明する事前学習会を行った。

公募により3カ国語に対応した推進室職員を6月から採用し、10月からは新たにスペイン語講師を採用した。プログラムのホームページで日英西3カ国語による情報発信を行い、海外からの問い合わせも増加した。また11月の教職員出張時にはパンフレットを使用して宣伝・普及活動を行った。

カトリカ大学との間でダブル・ディグリー制度構築に向けての準備協定書を締結し、協議を開始した。

2017年度

派遣13名（長期2名、短期11名）・受入13名（長期3名、短期10名）の交換留学を実施した。長期派遣学生は、留学先で言語学習を継続し、専門科目の単位を修得した他、現地で開講しているスペイン語・日本語講座に補佐として参加した。長期受入では、山形県内企業で全員がインターンシップを体験した。短期派遣ではペルーとボリビアで現地学生と合宿型研修を行い、短期受入では日本人学生が計画作成段階から参与した。

11月ペルー・リマで協定5校教職員と「第2回担当者会議」を行った（チリは別途訪問）。2月ボリビア・チリの日本語教員をペルーに召集して「日本語教師トレーニング・セミナー」を開催した。ペルー・カトリカ大学で開講している日本語講座で新たに他のペルー協定3校の学生も受入れた。サテライトオフィスは派遣学生への支援窓口としても機能しており、学生ビザの制度変更時にはペルー入国管理局との折衝を行った。スペイン語は山形大学人文社会科学部の正式科目となり、短期派遣とともに単位化され、平成30年度からは基盤教育科目としても開講した。

派遣事業周知のためパンフレット、留学経験者へのインタビューを中心としたプロモーションビデオを制作した。長期受入学生の「花笠まつり」参加の様子はNHKニュースで放映された。8月には短期受入のタイミングに合わせて2年間の成果発表会を行い、学内外から約50名が出席した。

2018年度

派遣16名・受入13名で計29名の交換留学を実施した。長期派遣は1年間現地でスペイン語の学習を継続するとともに、専門科目を履修し単位を修得した。派遣学生は現地で山形大学が開講している日本語講座に補佐として参加した。短期派遣は南米3カ国を3週間で訪問し、協定6校での講義・交流活動に加え、日本企業・国際協力機関で研修を行った。長期受入学生はスペイン語授業に補佐として参加し、また帰国前に県内でインターンシップを経験した。短期受入では2週間の日程で山形大学3キャンパスと米沢栄養大学・鶴岡高専での講義・交流活動、県内企業・公共施設等での研修を行った。

3月にペルーで、カトリカ大学大学院アンデス研究専攻科と山形大学人文社会科学部とのダブル・ディグリーに関する打合せを行った。

ペルーにおいては9～11月に日本関連授業（カトリカ大学のみ）、2月に集中講座を開講して日本語授業開始、7～8月短期受入、11月日本語講座修了のサイクルが定着した。チリではペルー・サテライトオフィスからも出張支援して1月に集中講義を実施した。

山形大学のスペイン語講座は本年度より基盤教育科目としても開講し、夏休みに会話集中講義も行った。長期派遣では教職員がリマ市内のホームステイ先状況を調査し、安全面を重視して学生に情報提供を行った。ホームページでは短期プログラムの実施状況やその発表会の報告の他、長期留学生の体験記を掲載して活動内容を積極的に公開するとともに、後進の留学志望者の参考に供した。学内でスペイン語教育が普及し、人文社会科学部ではメキシコのグワナファト大学と新規に協定交渉を開始した。

2019年度

長期では、4月にラ・モリーナ国立農業大学より農学部で1名、ペルー・カトリカ大学より人文社会科学部で1名、9月にペルー・カトリカ大学より工学部で1名の計3名を受け入れた。ペルー・カトリカ大学へ、8月に人文社会科学部1名、3月に地域教育文化学部1名を長期派遣した。短期では8月に南米6協定校より10名の学生を2週間受入れ、山形県内で研修・交流活動を行い、2～3月には山形大学・鶴岡工業高等専門学校・米沢栄養大学より12名を3週間南米に派遣した。

サテライトオフィスで受入留学生の選考補助・事前オリエンテーションを行うとともに、長期派遣学生への現地でのサポート・短期派遣の現地での準備を行った。計135hのスペイン語授業を小白川キャンパスで実施、米沢・鶴岡在籍者には集中講義で対応した。後継プログラムを作成し日本学生支援機構の2020年度海外留学支援制度に応募、双方向型4名分が採択され短期研修・研究型7名分が追加採択待Aとなった。

本プログラムの運営委員会の業務は、人文社会科学部国際交流委員会が引き継ぐこととなった。カトリカ大学と山形大学人文社会科学部との間のダブル・ディグリー制度構築に向けて、協議を継続中である。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

(単位：人)

	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
計画※	8	5	8	8	15	12	15	12	15	12	61	49
実績	15	1	8	13	13	13	16	13	14	13	66	53

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス） 【1ページ以内】

● 継続的・循環的プロセスの確立

・山形大学からの短期派遣においては、事前のスペイン語講座の受講・事後報告会・受入活動への参加といったほぼ1年間にわたる活動を短期留学の条件とすることにより、継続的かつ循環的なプロセスとして確立している。また、派遣・受入ともに、短期経験者の中から次のステップとして長期を希望する者が出てきており、「短期から長期へ」というパターンが定着しつつある。

● 事前語学教育の充実

・2018年度から人文社会科学部のスペイン語講座を基盤教育へも開放したことに伴い、スペイン語受講生は前年度から倍増し、2018年度の履修者は、前期30名、後期19名、2019年度は、前期28名、後期16名となった。他学部からも多くの1年生も短期派遣に参加するようになった。南米からの受入学生は帰国後も日本語学習を継続しており、JLPT合格者数は増加した。

● サテライト・オフィス（ペルー）の設置（2016年度）

・サテライトオフィスにおいて、受入留学生の選考補助・事前オリエンテーション・日本語授業を行うとともに、長期派遣学生への現地でのサポート・短期派遣の現地での準備を行うことができるようになった。
・南米協定校においてプログラムが定着し認知度が高まったことで、南米協定校との国際交流の財源安定化のために費用の個人負担割合を高めたにもかかわらず、日本留希望者は増加している。

● 留学生の体験活動等の充実と拡大

・派遣・受入ともに、留学生の社会体験等の活動の幅が、大学外にも広がり、それぞれの学生の外国語コミュニケーション能力の向上とともに、将来的な就労等にもつながっている。
・2015年度短期受入で来日した学生1名は、日本でソフトウェア関連企業に就労中。本プログラム経験者への日本関連情報提供を継続することにより、再来日に対する心理的な障壁が下がったと考えられる。
・2016年度に短期派遣プログラムに参加後、翌年度にチリに長期留学した地域教育文化学部の学生は、JICAインターンプログラムに応募、採用され1～2月にボリビア事務所で研修を行った。
・山形大学農学部への長期受入学生（2018年度）が「日本語スピーチコンテスト」で大賞を獲得し、そのニュースがスピーチ原稿とともに地元紙に掲載された。
・2018年度工学部で受入れた長期受入学生が、地元米沢のNECエンベデッド(株)にてインターンシップに参加した。また、令和元年度人文社会科学部で受入れた長期受入学生が山形ドキュメンタリー映画祭にてインターンシップに参加した。さらに、2018年度ペルー・カトリカ大学に派遣した人文社会科学部学生は、ラ・ウニオン校の授業に教員補佐としても参加した。
・2018年度ペルー・カトリカ大学に派遣した2名は帰国後単位の付け替えを行い4年間で学部課程を修了した。協定留学を重ねることでそれぞれの授業に関する情報が蓄積され単位互換がスムーズに進み、学生が履修計画を立てやすくなった。